

新規水源開発に向けた調査について

1. 水需要の現状について

- ・ 出雲市水道事業全体の給水量の傾向は横ばいから微減

(1日平均給水量：

平成21年度 47,901 m³/日 令和元年度 46,270 m³/日)

- ・ 中心部(出雲、湖陵、大社地域)の給水量は微増、その他地域は人口減少により減少傾向

2. 水源の状況と課題

出雲市水道事業の自己水源率は96%、残り4%は島根県水道用水供給事業からの受水(県水受水)

【佐田地域、多伎地域、出雲地域の上津、稗原、乙立地区、大社地域の日御碕地区】

区域内水源(10か所)で安定供給

【平田地域】

灘分、美保における取水と県水受水で安定供給

【出雲、湖陵、大社地域】

出雲市水道事業全体の取水量51,000 m³/日(年平均)の内、上島、来原の2か所の水源地は39,000 m³/日(約76%)を取水する重要水源
水源に隣接する斐伊川の河床低下の影響や井戸の老朽化により取水量が減少傾向にあり、新たな水源開発などが必要な状況

寒波による凍結時や災害時には緊急的な水量の確保も必要

(平成28年1月の寒波時は約7,000 m³/日の取水量不足)

3. 来原系の新規水源開発

将来にわたる取水量の安定的な確保のため、斐伊川左岸沿線において10,000 m³/日以上の新規水源の開発を計画

(1) 予備調査 (令和元年度)

既存資料の整理・検証、斐伊川の流量調査等の結果から、上島水源地の下流側に水源候補地 (調査地) を選定 《位置図参照》

(2) 水文地質調査 (令和 2 ~ 3 年度)

地温探査、電気探査、既存井戸調査、水質分析により、地下水の立体的な分布や流れを分析

ボーリング調査を実施し、地下水の取水ができる地質かどうかを把握

揚水試験を実施し、取水可能量を調査

揚水試験時に周辺の地下水位を観測し、取水による周辺への影響を調査

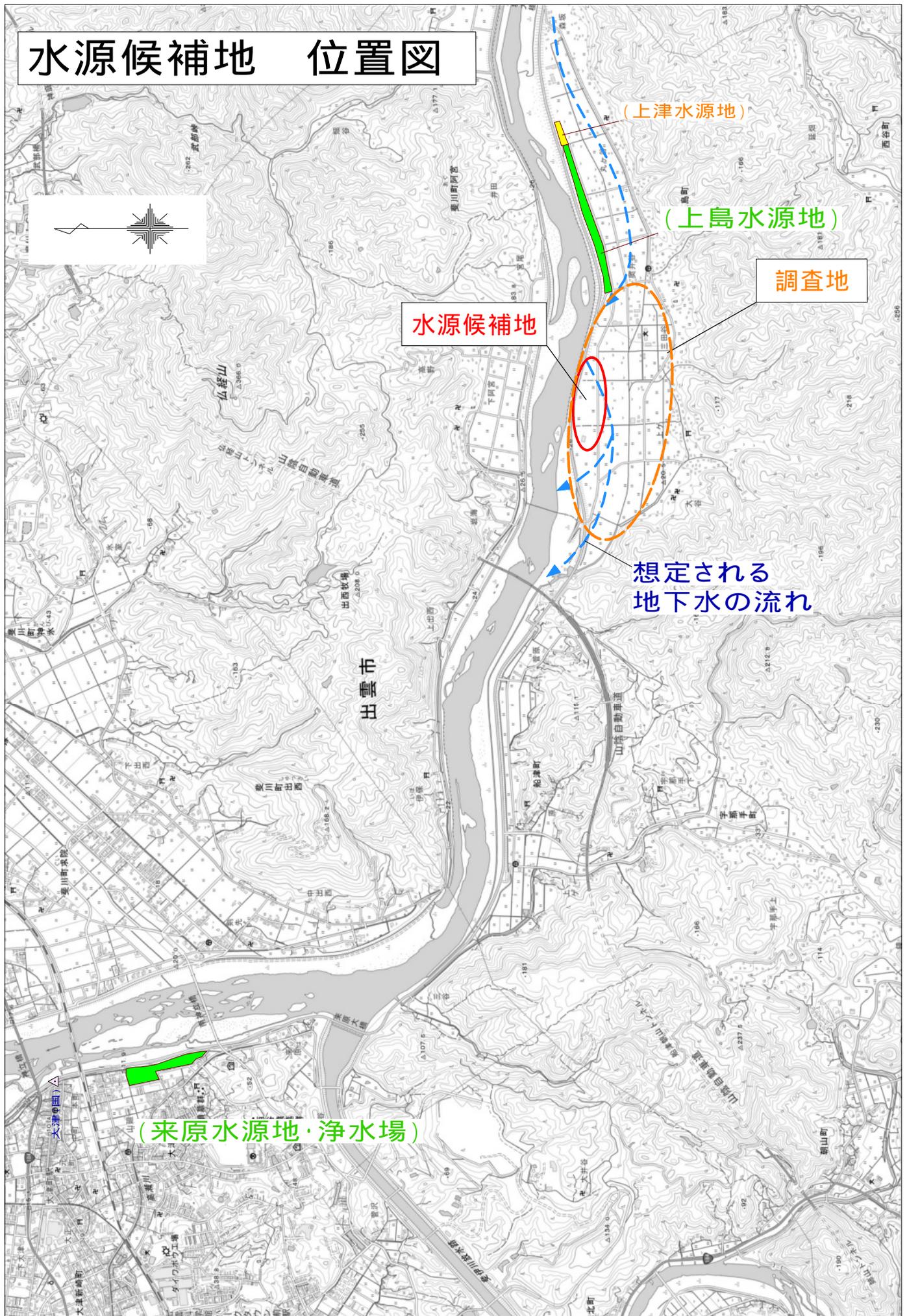


豊富な地下水の存在が確認できれば、水源地の範囲や面積を決定し、用地取得や施設の設計、認可申請手続き等に着手

4 . 今後のスケジュール

業務・工事 / 年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9~
予備調査 (文献調査・斐伊川流量調査)	➡								
水文地質調査		➡							
概略設計・認可申請				➡	➡	➡			
用地調査・取得				➡	➡	➡			
詳細設計						➡	➡		
新水源工事								➡	➡
新水源運用開始									➡ 順次供用開始

水源候補地 位置図



(上津水源地)

(上島水源地)

調査地

水源候補地

想定される
地下水の流れ

(来原水源地・浄水場)